



夏点描

イベントから思うこと

今年も暑い夏でした。短い期間に大小のイベントが数多く開かれましたが、その一部から八丈の夏の表情を拾ってみました。

夏まつり 第44回を迎えた八丈島夏まつりは、あいにくたびたびの通り雨にたたられましたが、人出は昨年より約200人増えたそうで、ほっとしました。ただ、まつり会場近くに住む一住民として、年々まつりの規模や賑わいが小さくなっていることはとても残念で、なんとか対策が必要だという思いにかられていました。

□ **出店が少ない、人出が少ない** かつては役場裏の信号から植物公園にいたる道路一帯がまつりの雰囲気にあふれ、入口には鳥居と大きな下駄が飾られ、出店は南海タイムス近くから旧商工会館広場まで続きました。その後人口減少にともない人出も減り、様々な事情で出店をやめた事業所が年々増えました。出店料が高いという課題もありました。出店が少ないことは、まつりの賑わいを減らす原因のひとつだと思います。

□ **対策は** 以前のようにぎやかさを取り戻すために、町と商工会は改善をしてきました。出店料を下げたこと、日程を金・土・日と週末に変えたこと、イベント会場の改善などです。このほかイベント会場のプログラムも充実するなど様々な工夫のあとが見られ、商工会青年部の努力はおおいに評価したいと思います。

しかし、出店が少なくてさびしいという声は思いのほか大きく、このまつりへの期待が高いことをひしひしと感じます。一方、出店する側の事業所は同じ内容の店がふえると競合して採算割れするのではと不安があるようです。食べ物の出店はとくにそうです。住民側からすれば、同じ食べ物が数か所で売られていれば、並び時間が少なくてすみ、まつりを楽しむ時間が増えることとなります。そのバランスをどう取るのが課題です。

かつては、光るきのこを展示するきのこ研究会や東京電力のブースなど利益を求めず、住民へのアピールを目的とする出店もありました。物を売らないブースは無料にして出店をうながすなど、現状を改善する方法を考えるべきだと思います。

何より夏の最大のイベントです。観光客誘致対策として、島の子供たちが安心して楽しめる場を提供する機会として、このまつりを盛り上げるために、住民一人ひとりに何ができるか考えたいと思います。

老人ホームの夏祭り 8月9日（火）、恒例の老人ホームのお祭りに行ってみました。駐車場にやぐらが組まれ提灯の灯りが連なり、無料接待の屋台も並んでにぎやかでした。ホームの職



前ページより続く

員と利用者とその家族たちが和やかに歌や踊りを楽しんでいました。気がつけば、養和会だけでなく島内の他の事業所からの参加もあって、島の6つの事業所の中で養和会が中心的な役割を果たしていることを実感しました。さらに、連合婦人会や榎立踊り保存会の方々も踊りや歌で雰囲気盛り上げていて、こうした地域の方々の協力も見逃せません。車いすを使っている利用者の方々が、花笠を持ってやぐらを囲み、職員と一緒に楽しそうに両手を動かしながら花笠音頭を踊っていました。職員の方々の日頃のご苦勞を思いながら、議員の一人として、こうしたイベントに参加し現状の一端を知ることの大切さを思いました。

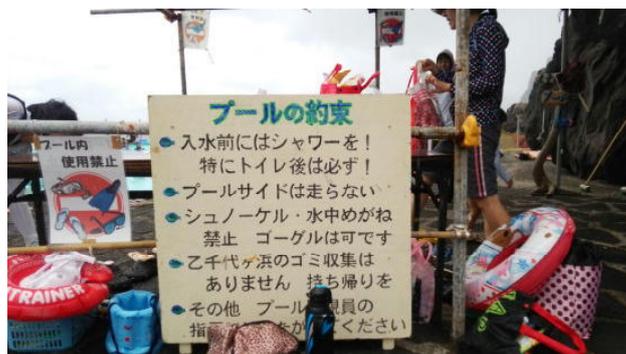
乙千代ヶ浜の海水プール

今年も、夏休みの間

乙千代ヶ浜の海水プールが開かれました（台風のため8月19日までで終了したそうです）。

榎立住民と三原小PTAの有志3人のボランティアと、有償の管理人の計4人が交代で子供たちを見守っています。町の事業を榎立の自治会が委託されて運営しています。

この夏帰省した私の家族も利用させていただき、子どもたちは大喜びでした。住所や連絡先など記録もきちんととられていて、榎立地区の住民だけでなく、坂下の住民や観光客もたくさん訪れています。割合からいえば榎立住民はむしろ少ないそうです。無料でしかも安全に



楽しめる施設は貴重です。きれいな海を誇れる八丈島ですが、残念ながら家族で楽しめる海水浴場は多くはありません。観光客も、海が多少荒れていてもここなら海を満喫することができます。

地元の方々の協力は今後も欠かせませんが、町ももっと力を入れて観光スポットとして宣伝していくべきだと思いました。

6月議会での発言から

相談室の利用 庁舎内の相談室は7つあるが、利用状況はどうなっているか。空いている部屋があれば、住民に貸し出しできないか。少人数の会議などに利用したいという要望がある。

町 相談室は約8割利用されている。住民への貸し出しは行っていない。町の業務執行にかかわることに使っているので、一般住民の会議については条例化された富士見公会堂や商工会研修室を使ってほしい。

八丈のアリ対策を ここ数年、アリの発生が激化している。島全体に及んでいる。なんとか対策をたててほしいが、町がヤスデ対策に配布している薬剤のコイレットがある程度の効果があるらしい。アリ対策用に配布できないか。

町 コイレット剤はあくまでもヤスデ対策に配布しているので、アリ用には配布しない。



2016年6月議会 一般質問



1. 歴史民俗資料館の移設を決める前に

資料館の移設を巡っては、すでに様々な意見が出されている。今年度中に移設場所を決めるとしているが、こうした状況で移設や場所を決めてしまうのは拙速ではないか。原点にもどり、移設にいたる経緯を明らかにし、議論を深め、納得のいく結論に導くことが今必要だと考える。

(1) 移設しなければならない理由は何か。(2) 選択肢は「移設」しかないのか。(3) 議会での合意の必要性はあると考えるか。

町 (1)と(2)については、東京都の耐震診断により倒壊の危険があり、町に貸す期限は平成30年夏までと言われた。教育委員会でも代替施設に移設するとの決定をした。

(3) 議会の合意は重要と考える。総務文教協議会を開く。

再質問 移設場所として候補があがっている測候所は、資料館としてふさわしいと思わない。島の中で唯一の国指定の登録有形文化財であり、耐震補強をしたうえで、保存・活用する道をさぐるべきだ。建物の資料的価値や観光資源としての重要性を考え、補修保存の可能性を都や国に要望すべきではないか。

教育長・町 移設は永続的なものではなく、資料の劣化を防ぎかつ閉館をさけるために行う一時的避難と考えている。東京都と話し合いはしているが、修理や補強という視点では、国や都と話し合っていない。

再々質問 「一時的」との答弁に少し安心した。ただ、この文化財に登録されると、一部の補助や減税があり、外観を大きく変えなければ改修も認められるとなっているが、じっさいどうなのか。

町 その点については、都に確認する。

2. 定住促進策はどこまで進んでいるか

(1) 空き家調査を終えたあと、空き家バンクの整備および空き家のリスト(空き公共施設を含む)はできているか。

(2) お試し住宅、お試し定住体験への取り組みは。

(3) 地域おこし応援隊の募集はどのように行っているか。また応募はあるか。

町 (1) 空き家322軒のうち43軒が利用可能と考えている。今後、所有者と交渉していく。空き家バンクはその結果が出てから整備したいと考えている。

(2) お試し住宅や体験については、効率を考え、町でなく民間にゆだねたい。

(3) 地域おこし協力隊は、今詳細を検討している。募集は11月になる。

再質問 利用可能な空き家物件は、ホームページで見られるようにしてほしい。地域おこし協力隊の募集は、総合戦略資料では28年度募集、29年度活動開始となっているのに対応が遅すぎる。募集もよりアピールする方法にすべきだ。

町 空き家バンクは整備できた時にはネットで公開したい。協力隊は受け入れ態勢をきちんとしてからと指導を受けている。業務は熱中小学校の運営支援を考えている。

総務文教協議会

6月14日

歴史民俗資料館について

前日の一般質問では、私が取り上げた歴史民俗資料館の移転問題について、町は「移設は閉館を避けるための一時的なものだ」と答弁しました。私は、「一時的なものであればやむを得ないと思うが、将来的に具体的な計画が示されなければ納得できない。また、国の指定有形文化財なので耐震補強をしたうえで、改修して保存する道はないのか、国や都の意向を聞いてほしい」と重ねて追及しました。さらに移転後の新資料館建設についても、「公民館の整備も次々に予定されているが、町にとって何が重要かを考え優先的に取り組むべき」と要望しました。

議員からは、「測候所までのバスの路線変更の必要性」や、「収蔵品の保存保管をきちんとできるのか」、また「島の歴史を築いてきた文化が息づくあの場所にこだわるべきだ」など、多くの意見が出され、議論はある程度深まったと思いました。ただ、町は一時的な移転としながら具体的なビジョンは移転後に示すという答弁に留まりました。今後は具体的な時期や計画について、提案、要望を続けたいと思っています。

中学生八丈島体験ショートステイ事業について

これまで議会では、八丈高校の入学生数が減少していることを受けて、島外から生徒を受け入れる対策を要望してきました。その具体策のひとつとして打ち出されたのが、中学生を対象とした神津島村および八丈町教育委員会主催の体験ショートステイです。神津島では7月23、24日、八丈島では7月30、31日（1泊2日）の日程で実施されました。八丈へは20組の応募があり、抽選で3組を決めました。今後も継続できるよう求めていきます。

八丈町教育大綱

今年3月に策定されたという報告がありました。これにより、町の教育の一層の充実に取り組むということのことです。

全員協議会

定例議会終了後、次の件について協議されました。

■ 地熱発電事業者の公募 事業内容、応募資格、企画提案の内容など公募要項を示した上で、延期となっていた公募が6月に始まりました。8月半ばには事業者が決まることのでしたので、来年早々に事業が具体化するそうです。

■ 八丈島熱中小学校 山形県高畠町で開校した大人向けの学校で、全国的に注目され八丈町のほか2つの自治体が参加を表明しています。今年秋から旧末吉小学校を拠点に7回開かれます。

■ 道路整備事業にともなう旧役場の用地取得 道路の拡張に伴い敷地内にカーブした道路が整備されることになり、支庁の担当者から説明がありました。

編集後記

夏といえば、高校野球ですね。今年、八丈高校の野球部は見事に1回戦を突破しました。しかし、残念ながら三年生が引退し、単独ではチームを組めない見込みで、他島との合同チームになるとか。

中学生八丈島体験ショートステイをはじめとして八高の生徒を増やす対策に、今こそ本腰を入れなければなりません。

